

■ 「すすめ！大槌プロジェクト」成果報告 第1回目 ■

電子書籍アプリをリリース、被災地研修生2名の常勤雇用を実現

～ 地域住民主体の復興を目指した大学初の試みへ ～

関西大学社会的信頼システム創生センター（センター長：社会学部教授）は、岩手県上閉伊郡大槌町と連携し、2012年8月から、「すすめ！大槌プロジェクト」（正式名称：Sledge Hammer Inspiration Project、略称：「SHIP」）を展開しています。

本学は、地域の潜在的資源（現在、常勤の職を持っていない地域住民、あるいは、職があればUターンを志望する地域外居住者）を育成し、地域に新産業を創生するとともに、雇用創出プロジェクトを推進することを目的に、2012年7月10日に、大槌町と連携協力協定を締結しました。

この連携協力協定事業の一環として、2012年8月から、被災地支援に熱心な大阪市内のIT企業2社と連携し、スマートフォン用のプログラム開発技術研修を大槌町で行い、その研修生を就業に結びつけるというプロジェクト（SHIP）を具体的に展開してきました。

センターは、大槌町でIT教育を希望する研修生をサポートするため、訓練場所の確保や、町職員等の協力について支援するとともに、雇用の受け皿となる企業（KAI-OTSUCHI）を大槌町で登記することをはじめ、機材等を含めた現地での企業活動全般を全面的に支援しました。

研修生として希望した5名は、これまで、アプリケーションの製作経験がないものの、KAI-OTSUCHI で日々研修を重ねた結果、研修生の熱意と訓練の成果が実を結び、電子書籍絵本『インディアンズの森』を完成させました。この電子書籍絵本は、2013年1月21日に、App Storeにて無料アプリとしてリリースすることができました。

この電子書籍絵本アプリの製作を吟味し、研修生が就業に値する人材であるかどうかをKAI-OTSUCHI が客観的に評価を行った結果、2013年4月までに研修生5名のうち2名がKAI-OTSUCHI で就業することとなり、常勤雇用が実現しました。残り3名についても常勤雇用をめざして、引き続き研修を行います。

被災地の常勤雇用を実現させ、地域住民主体の復興を大学が支援するという、大学初の取り組みとして、センターでは今後もSHIPを展開し、成果報告を行います。

SHIPの成果、現状と将来の展望等の詳細については、別紙資料を参照ください。

別紙資料 SHIPの成果、現状と将来の展望（全3ページ）

（参考）大槌町との連携協力協定締結プレスリリース（全2ページ）

※本件は、2013年1月25日開催の第87回関西大学記者懇談会で報告させていただいたものと同内容です。

この件に関するお問い合わせ先

関西大学 広報室広報課 担当

SHIPの成果、現状と将来の展望

—大槌町でのIT教育・新規雇用創造による自律的復興支援プロジェクト、第一報告—

【0.はじめに】

SHIPはSledge Hammer Inspiration Projectの略称で、東日本大震災で甚大な被害を受けた岩手県上閉伊郡大槌町の自律的復興を支援するプロジェクトです¹。関西大学は、大阪市内のIT企業2社と連携し、スマートフォン用のプログラム開発技術研修を大槌町内で行い、IT企業の起業を支援するプロジェクトを昨年8月から具体的に展開してきました。

スマートフォンのプログラミング技能を持つ人材開発をプロジェクトの核としたのは、現在、この方面の技術者が国内で不足しており、オフショア（海外発注）へのシフトが進んできている現状があるためです。オフショアは人件費などの削減で有利な面、コミュニケーションコストの問題などがあり、大槌の地にはニアショアとしての発展可能性があるかと判断したためです。

昨年8月下旬に研修がスタートした本プロジェクトの最初の成果として、

1. App Storeにおいて、研修員が製作した電子書籍を本年1月21日にリリース
2. 本年4月までに2名の常勤職の雇用を創出（＝IT企業の地域内起業の実現）

が実現することとなりました。プロジェクトの成果としては、ほんの小さな一歩にすぎませんが、今後の大きな成長をめざす第一歩として、具体的成果をここにご報告いたします。

【1.SHIPについて】

1-1 目標

このプロジェクトは短・中期に以下の3つを目標としています。

- a. 地域に潜在する人的資源をはぐくみ、高度情報社会の要請に応じた技能をもつ人材を開発する
- b. 被災地域居住者を中心とするIT企業の起業を支援し、新規雇用を創造する
- c. 新規雇用の創造を通じて、若年男女の定着と流入（Uターン、Iターン）を促進する

また、このa～cの実現は、中・長期には次の4つの目標へとつながっています。

- i 雇用の安定化を通じて、社会問題の抑止をはかる
- ii 若年層の減少に中期的に歯止めをかけ、長期的には増加をめざす
- iii 地域文化の活性化を担う若年層を育成し、地域活性化を行う
- iv 日本のIT産業のニアショアを担うモデル地域への成長をめざす

1-2 実施主体と日程

SHIPは、関西大学と大槌町の復興に関する連携協定に基づき運営されています²。また、IT訓練と

¹ Sledge Hammerは、「大槌あるいは大鎚」を意味する語だが、同時に、形容詞として「強力、圧倒的な」という意味ももっています。また、Inspirationの語は「新鮮な閃き」「鼓舞」「士気」「創造的思考や仕事の産物」を意味するものとしてここでは利用しています。大槌地域が力強く、創造的な復興を遂げていくことを願うプロジェクトとして、この名称としました。邦語では「すすめ！大槌プロジェクト」と呼称しています。

² 関西大学と大槌町の復興を中心とする連携協定は、昨年7月10日に、大槌町の仮設庁舎内において、碓川豊町長と学長によって調印されました。